

5月中の不正プログラム関連情報

※ ニュースの内容は、各種報道、インターネット等で公表されている情報に基づくもので、
県警が事実を確認したものではありません。

鳥取県警察本部サイバー犯罪対策室

○ アンドロイド標的のランサムウェアが急増

産経新聞は5月31日、トレンドマイクロがアンドロイドを搭載したスマートフォンやタブレット端末をねらうランサムウェアが急増し、1～3月に前年同期の5.6倍に当たる約12万3,100種類が世界中で新たに確認されたとの調査結果を発表したこと報じた。

ランサムウェアは、パソコンで猛威を振るっており、トレンドマイクロは、「対象がスマホにも広がっている」と警鐘を鳴らしている。

ゲームやアダルト動画再生等のアプリを装ってダウンロードさせ、FBI等の捜査機関を騙り「法律に違反している」といった警告文が出るものが多く、日本語で脅迫する種類もあるという。

○ 「駐禁報告書」を称するスパムメールが拡散

ITmedia ニュースは、5月19日、主に「駐禁報告書」の件名で拡散されているスパムメールについて、銀行やクレジットカードの情報をねらうマルウェアスパムとしてトレンドマイクロが注意喚起していることを報じた。

同社は、5月14日から18日までの約5日間で、43万3,000件のスパムを確認したという。

旅行会社をかたるものや郵便局の配達状況を称するものなど、様々なバリエーションがあるが、いずれも同じ不正なURLへ誘導するものだという。

スパムの件名は、「駐禁報告書」が全体の約50%と最多。早朝5～6時の拡散量が多いといい、同社は、ネット利用者の出勤前をねらうところに何らかの意図があるとみられるという。

スパムに仕込まれているのは、「URSNIF」という不正プログラムで、従来はインターネットバンキングのアカウント情報をねらうツールだったが、現在はクレジットカード利用者向けオンラインサービスのアカウント情報を盗みとる機能が追加されているという。

一部のメーカーでは、スパムメールのフィルターをかいくぐって受信トレイに届いていたものもあるといい、むやみに開かないよう注意が必要。